

出席停止となる感染症一覧表

- ・一覧表にある感染症にかかったときは、法律で定められた「出席停止」となり、「欠席」にはなりません。
- ・感染症の疑いのある場合には、医師の診断を受けて下さい。
- ・感染症の診断を受けた場合は速やかに学校に連絡し、医師の許可があるまで家庭で休養をとって下さい。



《 第1種 学校感染症 》

病名	出席停止期間
エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘そう 南米出血熱 ペスト マールブルグ ラッサ熱 急性灰白髄炎(ポリオ) ジフテリア 鳥インフルエンザ(H5N1型) 重症急性呼吸器症候群(SARS)	治癒するまで

《 第2種 学校感染症 》 飛沫感染のため、学校において流行する可能性が高い感染症

病名	主な症状	潜伏期間	出席停止期間
インフルエンザ	悪寒、頭痛、高熱、咳、鼻水、倦怠感・のどの痛み	1~4日	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
百日咳	コンコンと短く激しい咳が続く	7~10日	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
麻疹(はしか)	発熱、咳、鼻水、目やに、結膜充血、コプリック班	8~12日	解熱後3日を経過するまで
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺の腫れ、痛み	16~18日	耳下腺、顎下線又は舌下線腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
風疹(3日はしか)	発熱、発疹、耳の後ろ~首のリンパ節の腫れと圧痛	16~18日	発疹が消失するまで
水痘(みずぼうそう)	発熱、発疹(紅斑→水疱→かさぶたに変化、かゆみや痛みを伴う)	14~16日	すべての発疹が痂皮化するまで
咽頭結膜熱(プール熱)	高熱、のどの痛み、頭痛、首~後頭部のリンパ節の腫脹、結膜充血	2~14日	主要症状消退後2日経過するまで
結核	発熱、咳、たん、倦怠感	6ヶ月以内	医師によって感染の恐れがないと認められるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	高熱、頭痛、意識障害、嘔吐	4日以内	
新型コロナウイルス感染症	発熱、咳、のどの痛み、鼻水	1~14日	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで

《 第3種 学校感染症 》

病名			出席停止期間
コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス			病状により感染のおそれがないと診断されるまで
病名	主な症状	潜伏期間	病院にかかった際にいつから登校して よいか必ず確認してください。
流行性角結膜炎	結膜充血、まぶたの腫れ、異物感、流涙、目やに、耳前リンパ節の腫れ	2~14日	
急性出血性結膜炎	結膜出血、充血、まぶたの腫れ、異物感、流涙、めやに、角膜びらん	1~3日	

下の一覧表にあげた病気は、基本的に出席停止ではありませんが、医師の指示に従い、出席停止にする場合もあります。適切な治療を受けてください。

病名	主な症状	登校目安 (必ず医師に確認する)
感染性胃腸炎	嘔吐、下痢	下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態が良い
マイコプラズマ感染症	咳、発熱、頭痛	症状が改善し、全身状態が良い
溶連菌感染症	発熱、のどの痛み、首のリンパの腫れ	適切な抗菌薬療法開始後24時間経過
伝染性紅斑(リンゴ病)	かぜ様症状、顔の紅斑、手足の発赤	全身状態が良い
手足口病	発熱、口腔・咽頭水疱、手・足の末端や肘、膝、臀部の水疱	全身状態が安定している
※アタマジラミ	頭髪部のかゆみ	出席停止の必要はありませんが、担任にはご連絡下さい。
伝染性軟属腫(水いぼ)	いぼ	医師の診断に従い、治療して下さい。
伝染性膿痂疹(とびひ)	紅斑を伴う水疱や膿疱、かゆみ	